

北極域のデータ公開の展望 Prospects for Arctic Data Archive

川本 温子^{1*}, 矢吹裕伯¹
KAWAMOTO, Haruko^{1*}, Hironori Yabuki¹

¹ 国立極地研究所

¹National Institute of Polar Research

日本の研究者による北極域の研究は、数十年前から現在まで広く行われており、その研究成果には、研究者自らが現地へ赴き取得した様々な観測データやサンプルおよびその分析データといった、現業観測では得られない貴重なデータが含まれる。しかしながらそれらのデータは研究者個人や各研究機関や大学に管理が任されていたこともあり、系統的に保管管理されてこなかった。

今回、GRENE 事業北極気候変動分野では、現在実施中の北極研究にかかわるデータを収集・蓄積・公開するための「北極域データアーカイブ」のシステムを立ち上げた。このシステムに格納するデータには余すところなくメタデータを対応付けし、検索できる形で実装している。今回開発したメタデータのスキーマは代表的な地球環境データに用いられている複数の仕様に対応しているが、今後もその数を増やしつつより汎用性の高いものに改良する予定である。

なお収集するデータとしては、現在および過去の観測データと、モデルやシミュレーションの双方を想定している。手始めとして、より実質的にデータの相互利用を促進するために関係者一同から機能調査を目的とした意見収集を行い、潜在的な希望を確認した。今後はこれらの意見を反映させてシステムの改版を行う。発表では、データ提供者と利用者の双方の立場から意見を頂き、より良いシステムにするための意見交換の場としたい。

謝辞：

本事業は文部科学省の大学発グリーンイノベーション創出事業「グリーン・ネットワーク・オブ・エクセレンス」(GRENE) 事業 北極気候変動分野の一環として実施されています。

キーワード: 北極研究, 現地観測, モデル, メタデータ

Keywords: Arctic Research, observation, model, metadata